

事例No 3

「生産性向上の取り組みを継続する体制づくりの構築事例！」

事業所概要

地域：札幌市

介護サービスの種類：介護医療院

事業開始年月：2018年7月

従業員数：48名（うち正社員41名）（R7.3現在）

支援に至る背景と課題

* 医療・介護の両方を担う介護事業所としてケアの質の向上に努めるべく、業務改善に取り組む必要性を強く感じていたが、「何から手を付けたらよいかわからない」状況より、生産性向上委員会を通じて実施すべきプロセスについてご相談がございました。

* 業務改善に対する熱意はあるものの、プロジェクトメンバーご自身のみで推進することにお悩みであったのでは？と推察しています。



支援内容

＊まずは「ICT機器購入ありき」ではなく、直接介護業務の運用基準見直しから着手しました。現場での申し送り基準や運用ルールを棚卸することなど、現場目線での業務改善を優先した取り組みが始まりました。

＊見直しの過程では、介護記録ソフトの運用や導入済の自動体位交換機能付きベッドの活用課題があることがわかり、既にICT利活用がすすんでいる法人内の他事業所を見学するなど積極的な情報収集が始まりました。

＊課題抽出を経て、移乗支援の手順書の改訂や、自動体位交換機能付きベッドの活用を促進するため、対象のご利用者様を選定し、看護部門とリハ部門が連携したカンファレンスを実施されるなど、推進するための体制づくりがすすみました。

＊同機器活用のみならず、活用を推進するために、コアメンバーの育成を先行するなど業務アドバイザーから提供のあった他事業所事例を参考にしつつ、取り組みが加速しました。



支援の“成果”

＊既に導入済の自動体位交換機能付きベッドの活用推進のみならず、直接介護業務の運用見直しより、服薬タイミングを変更することで業務全体の平準化をはかるなど多面的な取り組みに変化していきました。

＊当初は生産性委員会の推進について迷いがあったようですが、「次の委員会までに出来る範囲にタスクを細分化し、実行すること」を継続することで、自然と生産性向上ガイドラインに準じた取り組みになった事例として注視しています。

＊また、取り組みの過程で、「KPIの設定」「進捗管理の可視化」などの必要性にも気づき、タイムスタディツールの活用検討も着手されていることや広義の意味で「職場環境改善」の取り組みを実施することは処遇改善加算の「職場環境等要件」にも関連することも意識され、次年度より事業計画ともリンクしたプロジェクトになっていくものと推察しています。



支援に対する事業所の感想

- ・自施設内で生産性向上の取り組みを計画してはいたが、他業務に追われきっかけが掴めずにいました。伴走型支援を受けることを契機にWGを立ち上げることができました。外部の目があることは良い意味で緊張感を生み、継続的な実施や惰性的な運営にならないことにつながったと感じます。また業務改善の効果を確認していく重要性や施設全体の取り組みの把握が大切であることに気づくことができたのは大きな成果だと思いました。
- ・施設内での課題検討では視野が狭くなり、限局的な対応になりやすかったが、定期的にアドバイスや他施設の事例を提供していただくことで検討する幅が広がりました。実際の事例は現場の感覚がわかりやすくヒントになるものが多かったです。
- ・実際にアドバイザーと話あえる機会がもう少し多い方が、相談しやすいと思います(メール連絡はできたが、文面では伝わりにくい部分を伝わりやすくまとめなおしたり…と手間がありタイムリーな相談がしにくい感じもしました)。
- ・支援全体を通じてアドバイザーの先生や外部機関とつながりを持つことになり、閉鎖的になっていた施設運営においてとても良い機会であったように思います。

